



10
月

パストラル尼崎

神
無
月

No.160, 2025 (R7) 年 9 月 25 日

〔編集・発行〕

パストラル尼崎

尼崎市潮江 1 丁目 10-2

Tel. 06-6493-0521

Fax. 06-6493-0301

発行責任者：竹田 恵之

◆十月の歳時記◆

「今だから話せる東海道新幹線開業の日」

東京オリピック開催を九日前に控えた十月一日、東海道新幹線が開業します。その日、一番列車を運転した大石和太郎氏（92）の今だから話せるエピソードをご紹介します。

当時、新幹線の運転士の試験は、パイロット並みと言われるほど難関で、合格したのは、元、特攻隊員や、元、満鉄の運転士など一癖も二癖もある面々だったという。彼らは、世界初、時速200キロを超える列車を「俺達でいっちゃってやろう」と日々、訓練に励んでいた。

しかし世の中は膨大な建設費などを理由に新幹線建設には逆風が吹き荒れていた。そんな中でも多くの若い職員が「新幹線を俺たちの手で」を合言葉に、東京五輪開催に向け尽力。そしてつい一九六四年十月一日、東京―新大阪間の開業となる。その新大阪発上り一番列車「ひかり2号」の運転士に抜擢されたのが大石和太郎氏と関亀夫氏だった。

ただその日、国鉄上層部から二人に下された速度は「160キロ」。訓練期間が短い事が理由だった。常に210キロで試運転してきた大石氏は悔しさを押えきれず、ある作戦を試みる。

十月一日、午前六時ちょうど、まだ薄暗い新大阪駅ホームに「夢の超特急」を一目見ようと多くの人が集まっていた。出発式では地元中学生から何故か「白と紫の菊の花」が贈呈された（笑泣）。「速度をウンと落として時間を調整し、回復運転でスピードを出そう：」『京都』出発時は時速70キロでわざとゆっくり走り、遅れを回復させると称して、『大津』を過ぎたあたり、試運転時に路盤がしっかりしている事を確認していた場所でアクセルに当るノッチハンドルを握る手に力を込めた。ビュッフェ車に設置された速度計は「160キロ」を超え「210キロ」を指す。速度計を見守っていた乗客は世紀の瞬間に沸き立った。計画外の走行だったが、指令から聞いたとされることはなかった。

「けれど、ゆったり組まれたダイヤだった為、結局、東京には早く着きそうになり、時間を合わそうと最後は徐行運転したので、隣を走る在来線の山手線に新幹線が追い抜かれたんです。（笑）」そして続けてこう述懐するのです。「けれど心は晴れやかでした。まるで花道。皆が夢に向かう良い時代でした」



ほろ酔いのビール工場見学ツアー

8月末、「アサヒビールミュージアム」の見学ツアーを実施しました。昔の工場見学とは違い、企業のイメージアップを図るような演出がいたる所に散りばめられた“魅せる”工場ツアーの1日をご紹介します。

当日、現地に着くと、早速ウインドウショッピングを楽しむ皆さま。すでにアルコールが入ってるかのようなハイテンション状態のまま、いよいよツアー開始。ピカピカと美しい光を放つプロジェクションマッピングやVR装置（アイマスク）を付ける事で立体的な映像が体験できる会場をはじめ、椅子が振動したり白い霧が出てくるなど最新機器を使った没入型体験ができる演出は、まさにテーマパークのアトラクション。ご入居者の皆さまも大興奮！純粋に楽しめる様子は、同じグループの一般参加者の陰が薄くなるほどの圧倒的存在感！（デート中の皆さんお許しを・・・）そしていよいよお目当ての試飲体験会場へ。「記憶に残る最高の一杯」というアサヒビールのコンセプトの下、お好きな銘柄のビール等が試飲可能。専門スタッフからサーブされるビールは、驚くほど美味しく、皆さまそれぞれお好みの銘柄をチョイス。最高の状態で提供されるビールって、こんなにも美味しいんだと感動！「2杯しかダメ？」「もっと時間欲しいな〜」など上機嫌でビールを堪能する皆さま。頬は桜色、目じりは下がりっぱなし。箸が転がっても大笑い。帰りの車中もご想像どおりの賑やかさ。とまあ、とにかく楽しいツアーでした。笑

令和7年度

パストラルシニア大学

今年度も多彩な講師をお迎えし、充実した内容でお届けしています。講師陣からその受講姿勢を絶賛されている皆さま。今年度も是非ご参加下さい。

***毎回フロントにお申込み下さい。**

***当日は、学生証も忘れずに！**

第5回

仮題『耳、聞こえてますか？』

・日時：10月24日（金）14時

講師

尼崎中央病院耳鼻咽喉科

医師 池畑 美樹 先生



高齢者の聴力低下は、認知症のリスクなど様々な影響があると言われています。今回、しっかり「耳」の事を学んでみませんか？